

あ い さ つ

会長挨拶

高知女子大学看護学会会長 山崎 智子

皆さんおはようございます。朝早くから、しかもこの猛暑の中こんなにたくさんの方がお集まり下さいまして、本当にありがとうございます。

このような講演会は、隔年でございますけれども一般公開に致しまして、今年で8回目を迎えることになりました。年々希望して下さる方が増えて参りました。今年も随分たくさんの方々をお断りすることになりましたし、学会の会員の方々も前もって申し込みをしていないと参加できませんよ、というようなことを申し上げる程に盛会になっております。年々盛會に推移しているということをお大変嬉しく、感謝致しております。

今年は敗戦50周年を迎え、そして様々な行事が全国的に執り行われております。また広島長崎の原爆投下50年目でもあり、今日は広島への投下の日に当たっております。高知女子大学もまた50周年を迎えました。高知女子大学の看護学科は43年目を歩んでおります。そして皆様方のご支援を得て、ようやく学部独立が果たせるかな？大学院の設置がかなうかな？というところまでこぎつけることが出来ております。もうすぐだと思ふ一方、平成十年だといわれると、もっと早くして欲しいという思いは強く抱くわけですが、平成十年には何とか再出発できる見通しがたったというのが現実でございます。皆様方のご支援を得てやっとここ迄発展してきたわけでございます。ご存じの通り、高知女子大学は四年制の看護教育の第一号として出発致しておりますけれども、それが大学院の設置ということでは第何番目をつとめる事が出来るでしょうか、今年の4月には全国に41校の四年制大学が出揃いました。私は昨年現役を退職退いており、今、外から眺めているわけですが、はらはらどきどきの昨今でございます。ですが、皆様方の力強いご支援を得ながら何とか切り抜けていくものだと思っております。21世紀にはきっと、広々とした学舎で伝統を受け継いだ教育ができていますものと信じております。

ところで、今日お招き致しましたお二方の講師の先生、お一人は皆様よくご存じの南先生でございます。後で細かく御紹介があるかと思いますが、南先生は本当に国際的な立場でのお仕事を持つ傍ら、今年は大変な災害に襲われました。そしてその災害看護の拠点として活躍なさった訳でございます。そして今尚その仕事も引続けておられ、そして一方、国際看護学会をこの9月には開催なさるといった、本当に超多忙な方でいらっしゃる。今日はそうしたお忙しい中を、本学会の為においで頂いた訳でございます。そしてもうお一人方の岡谷先生は、なんて御紹介申し上げたらよろしいでしょうか…。この春から看護研修学校長として活躍なさっておりますが、新進気鋭の看護学者と御紹介したらよろしいでしょうか…。本学会の講演会にふさわしいお二方であろうと思っております。この場をお借りして、お二方の先生方に本当に今日お見え下さったことに感謝申し上げ、厚く御礼を申し上げたいと思っております。

そして大勢の学会員の皆様方や、一般会員の皆様方のご参加下さいまして、こんなに盛大に会を催すことが出来たことを感謝致しております。今後ともどうぞご支援頂けますようお願い申し上げます、開会の挨拶に替えさせて頂きたいと思っております。ありがとうございました。